



さまざまな学習体験から学ぶ

青やピンク色の小さな花が集まって、丸い花の形をつくる紫陽花が雨に濡れてひととき映える季節になりました。紫陽花は「辛抱強い愛」という花言葉をもつことから、この頃は記念日に贈る花束としても人気があるそうです。



先日、プール開きを行いました。プールからは連日子どもたちの元気な声が聞こえてきます。泳ぐ姿から一人一人の課題を常に把握しつつ、よい点をさらに伸ばし、課題を克服するためにそれぞれの子どもにあった言葉かけや支援を行います。指導の中で子どもたちは自分の課題と向き合い、熱心に努力をし、自信を付け、泳力を伸ばしていきます。

教室での学習も同じです。1学期のまとめに向けて、各学級では学んできた内容を確認し、成長を認め、課題を明らかにして夏休みを迎えられるよう指導しています。後日、通知表にて子どもたちの成長の様子をお伝えしますが、学校では子どもたちが「確かな学力」を身に付けることができるよう、各教科で観点別学習状況（知識・理解、思考・判断・表現、関心・意欲・態度等）の評価を行い、一人一人の学習状況を把握して個に応じた指導を行うとともに、評価を次の指導に生かすことで、子どものよさや可能性を引き出し、やる気を起こさせるようにしています。評価（○、△、◎）や評定（1, 2, 3, 4, 5）の数だけを気にして終わるのではなく、自分の課題と向き合い、どのように学ばよいかを振り返ったり、次の学習に向けて新たな「めあて」を設定したりする力を身に付けることが大切です。様々な学習を通して「確かな学力」を身に付け、高めることができるよう「辛抱強い愛」で指導にあたりたいと思います。

さて、1学期は6年生の修学旅行に始まり、5年生、4年生の社会見学、3年生、2年生の校区たんけんなど、子どもたちは学校だけではできない体験を通して多くのことを学んできました。朝顔、ミニトマト、ナス、ヘチマなど、それぞれ学年に応じた栽培活動にも励んでいます。毎朝登校するとペットボトルやじょうろで水やりをしたり、畑の草取りをしたりする姿が見られます。「芽が出たよ。」

「花が咲いたよ。」と喜びを感じ、命を育む大切さをこれらの活動から学んでいます。昆虫をつかむことができないという子どもが最近増えているそうです。「習ったことを身に付けるためには、聞くだけでは10%、見るだけでは15%しか記憶に残らないが、体験したことは80%記憶に残る。」と主張する研究者がいます。失敗したことも、つらかったことも、苦手だと感じたことも、子どもたちが成長する上で重要な体験の一つだと思います。子どもたち一人一人にぜひ豊かな経験をさせたいものです。



今後も引き続き、各教科や総合的な学習の時間などで家庭や地域の皆様のお力をお借りし、体験を通して貴重なものを学ばせていただく機会がたくさんあるかと思っています。その節にはご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長 藤原 佳弘
教職員 一同